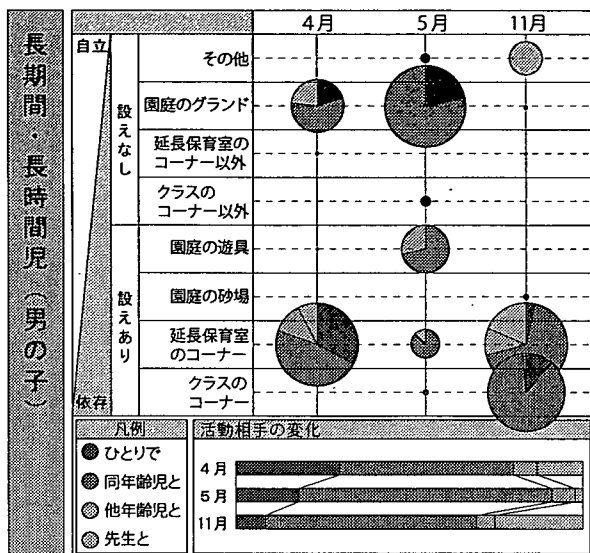


E. 4 施設滞在時間の違いをもたらすなじみへの影響

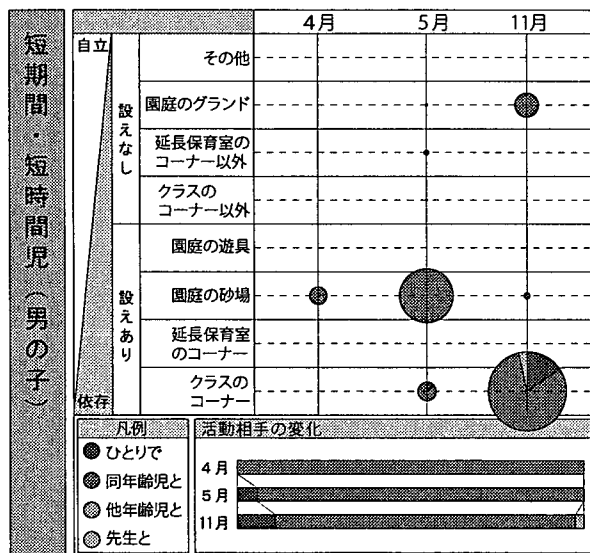
[短期間・長時間児]と[短期間・短時間児]の園児を比較し、施設滞在時間によるなじみへの影響を考察する(図5・5)。

両者を比較すると、短時間児はほとんど同年齢のこ

どもとのみ遊び、あまり多くの場所では遊ばない一方、長時間児は異年齢児、特に年長のこどもと一緒に遊ぶ。またこのことにも起因し、施設内の多数の多数の場所で遊んでいる。長時間児は園滞在時間が長く、延長保育時に5歳児と過ごすことで、短時間児よりも早く園の生活になじむことができると推察する。



4月、5月、11月全てにおいて、ひとりまたは同年齢児と過ごす時間が大半を占めている。また延長保育時間帯には他年齢児と遊ぶ場面も見られた。



4月、5月、11月全てにおいて、同年齢児と遊ぶ時間が大半を占めている。11月にはひとりで遊ぶ場面も見られるようになるが、延長保育を利用しないため、他年齢児と遊ぶ場面は見られなかった。

円の大きさはその場所の滞在時間を示す

図5・4 自由遊びにおける活動場所と相手(長期間児と短期間児の比較)

E. 5 クラス全体からみたなじみの過程

Fu園の4歳児クラスにおいて、4月、5月、11月のクラス活動様態を図5・7に示し、基本保育の自由遊びの様子を図5・8に示す。

4月は登園前に保育者がコーナーを設けておき、全員が各コーナーで遊ぶ。

5月の昼食後の室内遊びでは絵本を読み終わった子どもから、保育者が設けたコーナーで遊ぶ。

11月には、2つの4歳児クラスの中のドアを開放し(図5・6)、2クラスを一体的な空間として使用している。人数規模も倍に増え、所属にとらわれず遊ぶ。また5月の時点ではなかった木のブロックが室に用意されて、多くの子どもがそのブロックを使って自分たちの基地を作って、その中で思い思いの遊びを展開している。

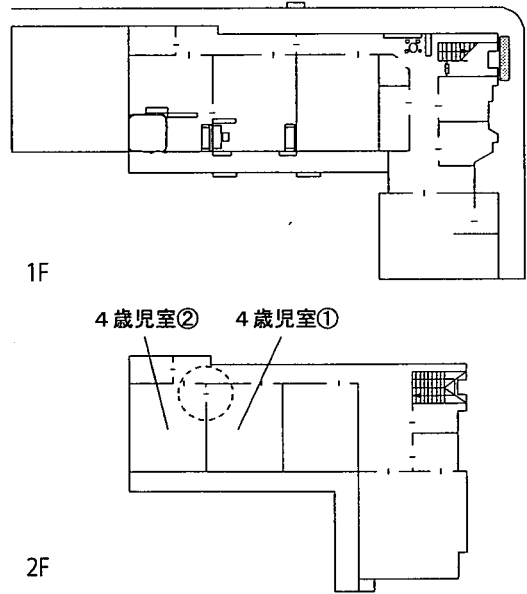


図5・6 Fu園平面図

| | | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|-----|--------|------|------|------|----|------|------|------|-----|----|------|------|----|
| 4月 | 2,3歳児室 | | 朝の挨拶 | 自由遊び | | | | | | | | | |
| | 4歳児室① | | | | | 帰りの会 | | | | | | | 補食 |
| | 4歳児室② | | | | | | | | | | | | |
| | 延長保育室 | 自由遊び | お支度 | | | 昼食 | 午睡 | | おやつ | | | 自由遊び | |
| | ホール | | | | 保育 | | | | | | | | |
| | 園庭 | | | | | | | | | | 自由遊び | | |
| 5月 | 2,3歳児室 | | 朝の挨拶 | | | | | | | | | | |
| | 4歳児室① | | | | | 昼食 | 帰りの会 | | | | | | |
| | 4歳児室② | | | | | | | | | | | | |
| | 延長保育室 | 自由遊び | お支度 | | | | 午睡 | | おやつ | | | 自由遊び | |
| | ホール | | | | | | | | | | | | |
| | 園庭 | | | 自由遊び | | | | | | | 自由遊び | | |
| 11月 | 2,3歳児室 | | | | | | | 帰りの会 | | | | | |
| | 4歳児室① | | 朝の挨拶 | 自由遊び | | | | | | | | | |
| | 4歳児室② | | | 自由遊び | | 昼食 | | | | | | | |
| | 延長保育室 | 自由遊び | お支度 | | | | | 午睡 | おやつ | | | 自由遊び | |
| | ホール | | | | | | 自由遊び | | | | 自由遊び | | |
| | 園庭 | | | | | | | | | | | | |

図5・7 クラス活動様態の変化(Fu園4歳児)

活動集団: ■ クラス □ 4,5歳児合同 □ 0-5歳児合同

E. 6 小括

当初、短期間児が園の生活になじむには半年ほど時間を要すると想定されたが、実際は5月の調査時点で、長期間児と短期間児の生活の様子に大きな差はなかった。

また、自由遊び時は5月と11月を比較して一つの

場所の滞在時間は変わらないが、そこでの遊びの質が格段に成長している。

F u 園の事例から、園児のなじみ程度に応じて、新しい道具の導入や空間規模の拡大を図ることのできる空間計画が子どもたちへの刺激となり有用であることが指摘された。

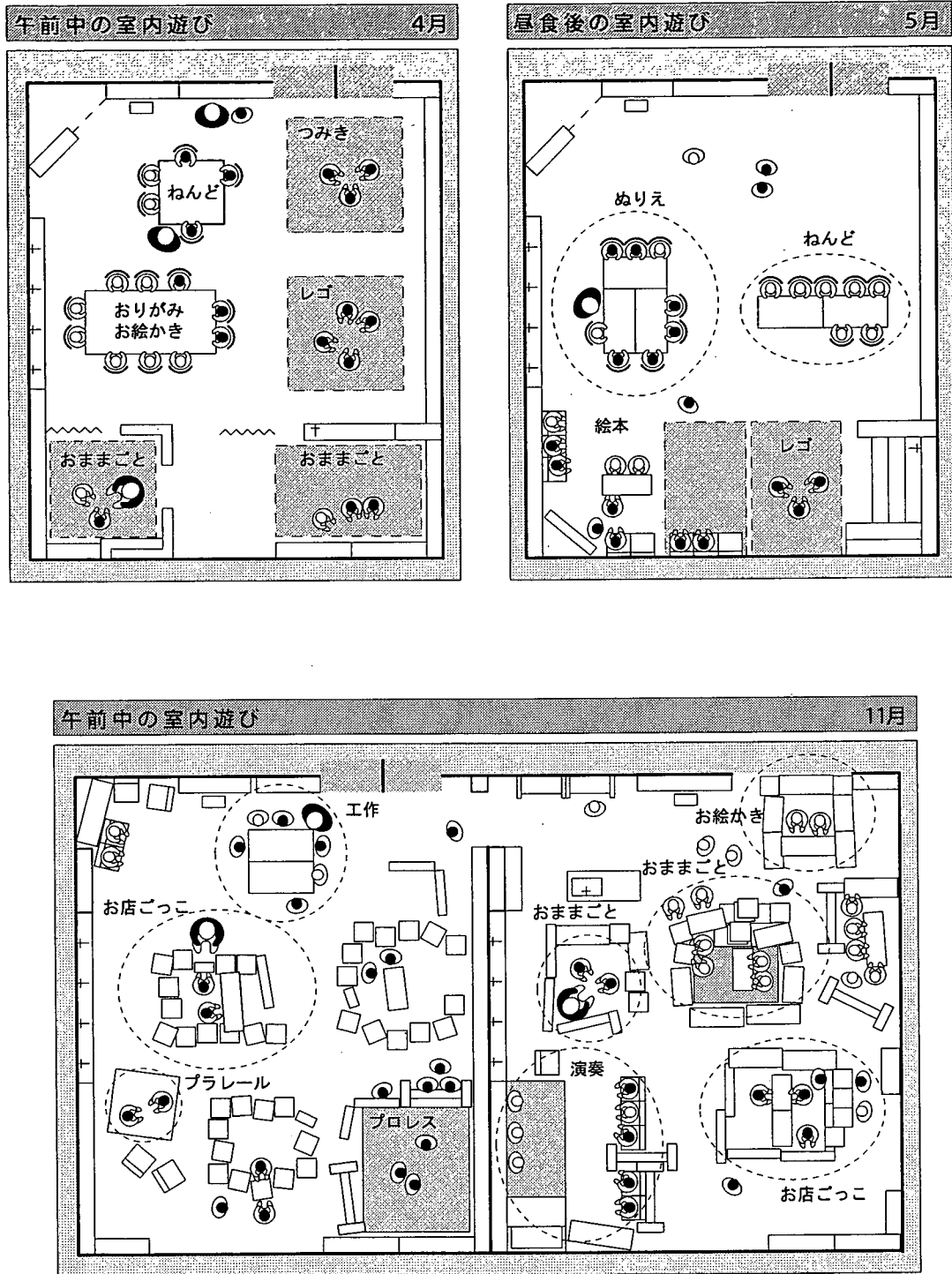


図5・8 基本保育の活動場面の様子(F u 園4歳児)

F. 総括

本稿で得られた知見は以下の通りである。

- 1) 幼保一体型施設では、いわゆる幼稚園児と保育園児が混在しているため、園児の施設滞在時間および期間が各個人によって異なる。そのため、「短時間児と長時間児の混在」と「短期間児と長期間児の混在」により様々な課題が生じる。
- 2) 時間帯ごとの人数規模に応じて、活動規模を一定に保つためや、保育者の人員配置等から段階的に活動場所の移動がおこる。とりわけ、短時間児が降園し、長時間児が午睡に移る際の移動には配慮が必要である。また、長時間児にはメリハリと連続性のある場面展開が必要である。
- 3) 降園する短時間児とその保護者に園庭を開放し、保護者同士や保護者と保育者間のコミュニケーションの場を提供し、また同時に長時間児の安定した午睡場所を確保できる建築構成が望ましい。
- 4) 室移動回数は運営形態と延長保育利用児数に大きく影響される。室移動回数が少ない場合は、単調な生活にならないよう設えに工夫が必要であり、回数が多い場合は、園児の遊びの連続性が保たれるような配慮が必要となる。
- 5) [短期間・長時間児]の場合は、延長保育時の5歳児との交流により、早期に園になじみやすく、幼保一体化の利点が現れている。
- 6) 園児のなじみ程度に応じて、遊びの空間や人数規模の拡大を図ることは、園児たちの社会性や創造性を促進させるため有用である。環境設定に際しては、こうした園児のなじみや活動の様子に配慮しつつ、定期的に環境を整えることが求められる。建築計画上の留意点としては、こうした環境設定を容易にするような動線の計画や、壁面・窓面の配置等の空間設計が求められる。

G. 研究発表

G. 1 論文発表

本稿は、加筆・修正の上、日本建築学会計画計論文集への投稿を予定している。

G. 2 学会発表

本稿の一部は、日本建築学会大会での口頭発表を予定されている。

ii. 幼保一体型施設における 具体的な空間や設えのあり方に関する研究 (園児の活動規模, 姿勢, 環境行動の視点から)

5. 保育時間帯による姿勢の相違にみる
幼保一体型施設における園児の生活と場の構築 (平成 19 年度) 91
研究協力者: 吉田麻衣子 (立命館大学 学生)
主任研究者: 山田あすか (立命館大学 講師)
6. 幼保一体型施設における活動の分布と規模に関する研究 (平成 19 年度) 99
研究協力者: 山田 恵美 (立命館大学 客員研究員)
主任研究者: 山田あすか (立命館大学 講師)
分担研究者: 佐藤 将之 (早稲田大学 助手)
7. 保育施設における生活具に関する環境行動の分析 (平成 19 年度) 113
研究協力者: 小林あゆ泉 (早稲田大学 学生)
分担研究者: 佐藤 将之 (早稲田大学 助手)
8. 幼保一体型施設における年齢に応じた環境行動に関する考察
(平成 18 年度) 149
研究協力者: 猿渡 多聞 (早稲田大学 学生)
分担研究者: 佐藤 将之 (早稲田大学 教育コーチ)
9. 保育施設のトイレに関する環境行動研究 (平成 18 年度) 171
研究協力者: 岩崎 広行 (早稲田大学 学生)
分担研究者: 佐藤 将之 (早稲田大学 教育コーチ)

保育時間帯による姿勢の相違にみる 幼保一体型施設における園児の生活と場の構築

研究協力者：吉田麻衣子(立命館大学理工学部建築都市デザイン学科)

主任研究者：山田あすか(立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 講師)

近年、従来異なる施設であった保育所と幼稚園では、それぞれの保育・教育観に基づいて保育環境のあり方が考えられてきた。いま新たに、幼保の機能を併せ持つ幼保一体型施設においては、施設特性に応じた空間作りの検討が課題である。そのため、本稿では特に園児の滞在様態をよく表すと考えられる園児の「姿勢」に着目して、園児の活動実態を把握することを目的とする。研究方法は、幼保一体型施設における、幼稚園児(短時間児)と保育園児(長時間児)が混在する3・4・5歳児クラスの園児の終日の活動場所・活動内容・活動規模の観察調査によった。この調査の結果から、保育時間帯(朝夕の延長保育とコアタイム)・園児の年齢・活動内容に着目して現況分析を行い、保育時間帯によって園児の活動内容や姿勢が異なること、また園児の年齢によって活動や姿勢の自由度が異なることなどを指摘した。ここから、今後の施設計画においてどのような点に配慮し計画を行う必要があるのかを記述した。

A. 研究の背景と目的

近年、女性の社会進出、核家族化、急速な少子化に伴い、幼稚園・保育園の在り方が変化してきている。少子化に伴い幼稚園の定員割れが生じる中、女性の社会進出などにより保育所を利用する児童が年々増加しているのに対し、保育所の数はその急激な増加に対応しきれず、年々待機児童数が増加している。保育所では待機児童数が年々増加している。その中で幼稚園の定員割れ、保育所における待機児童数の増加を抑えるために近年増加しているのが、幼稚園と保育所の機能を一体化した幼保一体型施設である。

2005年次に株式会社野村総合研究所によって行われた「少子化対策と幼保一元化」に関するインターネットアンケート調査²⁾より幼保一元化に対する意識確認を行う。2005年度の時点での「幼保一元化」の認知度のアンケートを行った。この調査の結果では「幼保一元化」に対する認知度は低い。しかし、その一方で「実態にあっている」と答えた人は半分を上回る52.4%となり取り組みについても、46%の人が「効果がある」と回答した。また「幼保一元化」の施行は国民に

新たな負担をかけて行うべきか、というアンケートに対し、コスト増にならない範囲内という人を合わせて68.5%が「幼保一元化」を行うべきだと回答した。以上のことより近年、待機児童数増加などの影響により幼保一体型施設に期待をもつ人たちが増加している。その結果、今後同施設について、従来異なる施設であった保育所と幼稚園の機能を併せ持つことによる施設特性に応じた空間作りの検討が課題である。本稿では、特に園児の滞在様態をよく表すと考えられる園児の「姿勢」に着目して、園児の活動実態を把握することを目的とする。

B. 研究調査概要

B. 1 調査施設概要

以下に、調査の対象としたHh幼稚園の概要をまとめる。

◆所在地：滋賀県栗東市

幼稚園

◆定員：175人

◆施設：鉄骨2階建て

保育室6室 計329㎡
 遊戯室1室 計163㎡
 屋外遊戯室 1か所 1,500㎡
 その他4室

園児たちが幅広い視野を持ち色々なことに
 興味を示すようにと創意工夫されている。

保育園

- ◆定員：110人
- ◆施設：鉄骨1階建て
 - 保育室5室 計210㎡
 - 乳児室1室 計148㎡
 - 屋外遊戯室 1か所 1,309㎡
 - その他5室
- ◆特徴：このHh幼稚園は栗東市の東部に位置し、同じ敷地内に幼稚園と保育園が存在する。基本的に幼稚園・保育園の区別はなく両園児は保育時間帯によって活動教室をとにする。また3歳児は短時間児と長時間自が別に処遇され、4・5歳児は両者が混在したクラス編成になっている。もう一つの特徴としてこの園では教室内に多数のコーナーが設けられ、

図1はHh園の施設概要を示す。園内は大きくわけて年長クラスが集まる園舎と年少クラスが集まる園舎に分かれている。年長クラスは保育時間帯・活動人数によって園舎を移動し年少クラスの集まる園舎へ行くこともある。調査期間中に使用した教室においては、教室ごとにコーナーと設え(家具)の位置を示した。図中のグレーの部分を中心にコーナーとし、それ以外の部分はフローリングまたはたたみとした。

調査対象であるHh幼稚園では、基本的に短時間利用児は朝8時半から午後2時まで園で活動するが、午後2時以降でも預かり保育(延長保育)があるため午後4時まで園で活動する園児もいる。長時間利用児は朝7時半から午後6時半までの間、園で活動する。基本的に短時間利用児と長時間利用児の活動場所は区別されず両園児が揃う時間帯は同じ教室内で活動する。園児はコアタイムでは各クラス単位で各クラスを拠点

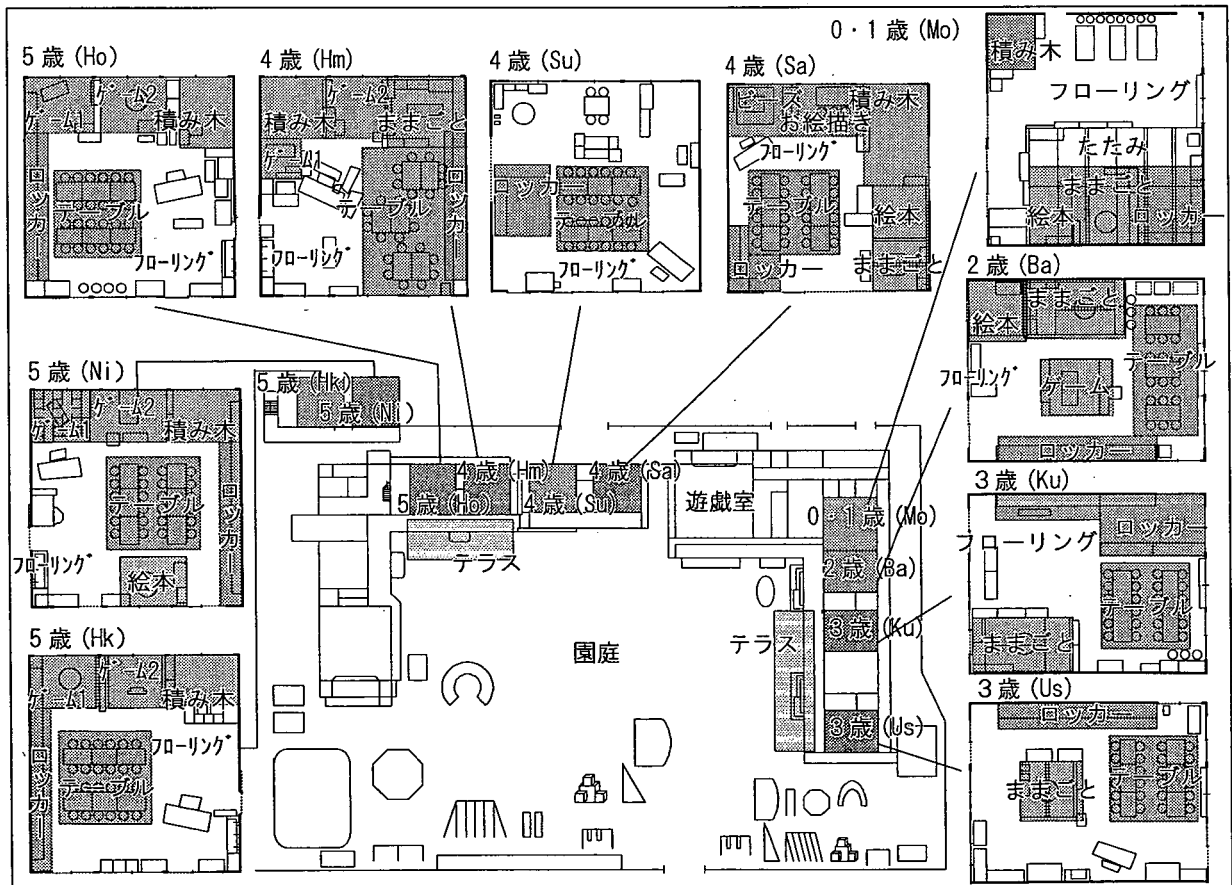


図1 調査対象施設概要

に活動し、朝夕の延長保育の時間には、園児数に合わせて全学年または学年単位で少数の教室に集まって活動する。

B. 2 調査概要

調査日時と調査対象クラスの概要を表1に示す。

調査は3歳から5歳までとし、調査対象クラス全員(当日の欠席者を除く)を調査対象者とした。朝7時半から午後6時半までの間、10分毎にクラス全員の活動場所・活動内容・姿勢・その時園児と関わった設えがわかるように写真とメモによる観察調査を行った。園児の観察調査とともに先生が園児に対して指示を行った場合その都度メモをとった。また、各教室に設けられているコーナーごとにどのような設えが設けられているのかを調査した。

表1 施設概要

| 名称 | Hh 幼稚園 | | | | |
|-------|-----------|-------|-------|------|-----|
| 所在地 | 滋賀県栗東市 | | | | |
| 調査概要 | 調査日時 | 対象クラス | 人数 | 利用時間 | |
| | H19.10.22 | 3歳 | Kuクラス | 21人 | 長時間 |
| | | | Usクラス | 20人 | 短時間 |
| | H19.10.24 | 4歳 | Saクラス | 21人 | 混合 |
| | | | Hmクラス | 24人 | 混合 |
| | H19.10.23 | 5歳 | Hoクラス | 22人 | 混合 |
| Niクラス | | | 20人 | 混合 | |

短時間：コアタイムのみ
 長時間：コアタイムと延長
 混合：短・長時間が混合

C. 設えと姿勢の関係

C. 1 設えの分布

園内には様々な形状の設えがあるがこれらを高さと同面積の関係で記すと図4のような関係性がみられる。

- ・高さが低く面積が比較的狭い設え
 - ・高さが比較的高く面積が広い設え
 - ・高さが高く面積が比較的狭い設え
- に分布されることがわかった。

C. 2 設えと姿勢の関係

1) テーブル

①高さと姿勢の関係

図5の左上図はテーブルの高さと姿勢の関係について示した図である。

園内におけるテーブルには高さが30cm前後までの低いテーブルと高さが50cm前後の高いテーブルの2種類が存在することがわかる。また図より低いテーブルは床座を中心に多様な姿勢が見られる。しかし、高いテーブルを使用する際には床に座る・しゃがむなどの低い姿勢では使用されておらず姿勢の種類は制限される。

②面積と姿勢の関係

図5の右上図はテーブルの面積と姿勢の関係について示した図である。

園内におけるテーブルの面積は一様であるが4000cm²から5000cm²の間の狭い面積のテーブルと5000cm²

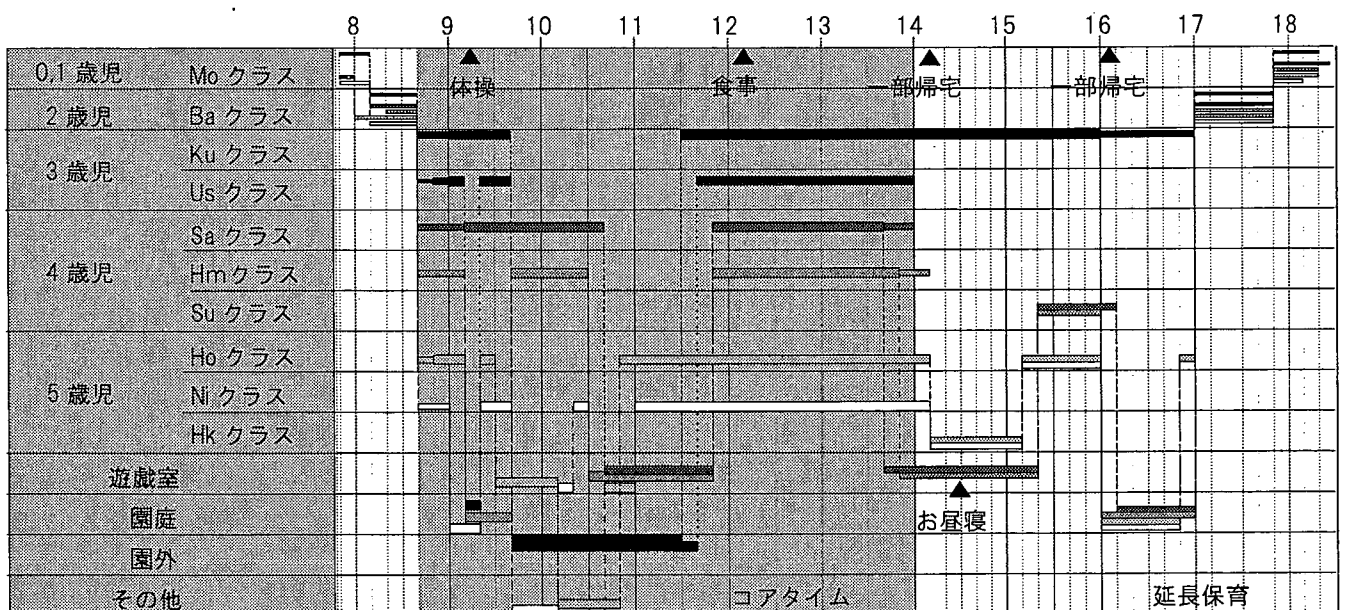


図2 1日の活動場所

線の太さ — 5人以下 — 6人以上 — 15人以上

から 6000 cm²の広い面積のテーブルの使用頻度が多いと言える。この図より面積が低いテーブルでは低い姿勢が多く、広いテーブルでは「イス座」の姿勢に集中する。

2) 棚

①高さとの関係

園内で遊びに使われる棚はおよそ 65 cm 以下のものが多く「床座」と「立つ」の姿勢に集中していることがわかる。

②面積との関係

園内の棚の面積は一様であるが面積が狭いものでも面積が広いものでも「立つ」の姿勢に集中することがわかる。

D. 姿勢に着目した幼保一体型施設での園児の活動

はじめに実際に調査を行った各クラスの1日の活動の流れを見ていく。クラスごとに1日に使用した活動教室と活動場所を示す図を記す。園児たちが園内で1日を過ごすにあたり、いつ、どこで活動を行っているのかを把握することが目的である。

また各クラス単位の1日の流れがわかるようにクラ

スごとに1日の主な活動の流れを示す。各クラスの1日の活動内容を把握した上で園児の姿勢の相違について考えていく。

D. 1 保育時間帯による姿勢の相違 I

Kuクラスの1日の活動内容：

園児たちは朝7:30から保護者に連れられ徐々に登園してくる。登園後、Kuクラスの園児は保護者と共に一度自分の教室へ行き各自の棚に荷物を片付けてから0歳～5歳まで全学年が集まるMo教室で朝の自由時間を過ごす。8時になると3歳以上の園児たちは先生の誘導によりBa教室へ移動するが特に先生からの指示はなくそれぞれが設けられたコーナーで遊ぶ様子がみられる。8時半前後になると園児たちは各クラスの先生に導かれ各教室へと移動していき、移動したのちしばらくの間は各々で自由に遊ぶ光景が見られる。9時ごろからは主に3歳～5歳児が園庭にて体操を行い体操後は再び各教室へ戻る。Kuクラスの園児たちは先生の指示により手洗いなどを行ったのち給食の準備を行い準備ができた園児から席に着席する。9時半にはお散歩に行く前のお話があり先生の指示により一か所

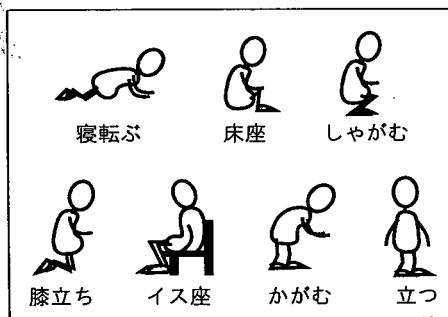


図3 姿勢の分類

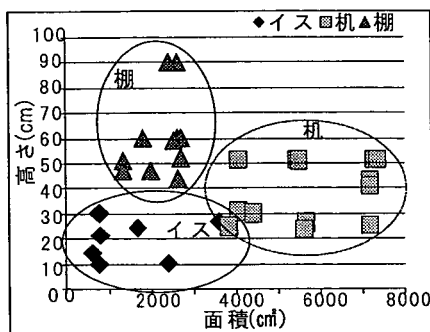
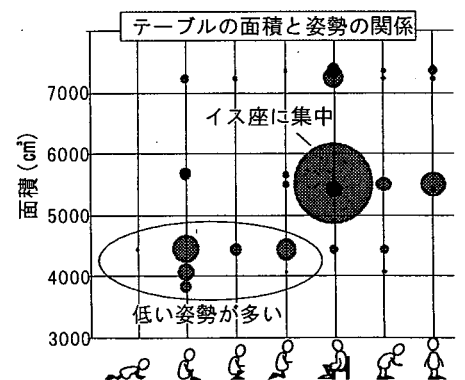
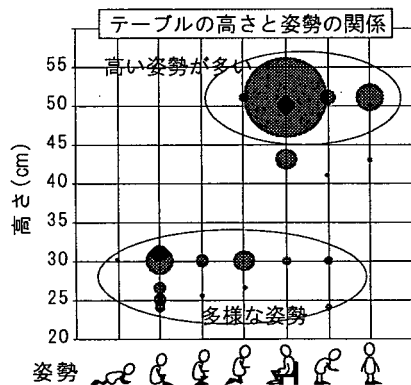


図4 設えの高さと面積の関係

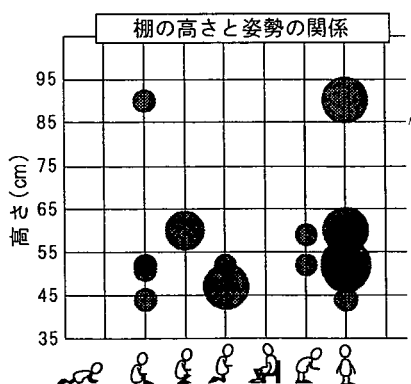
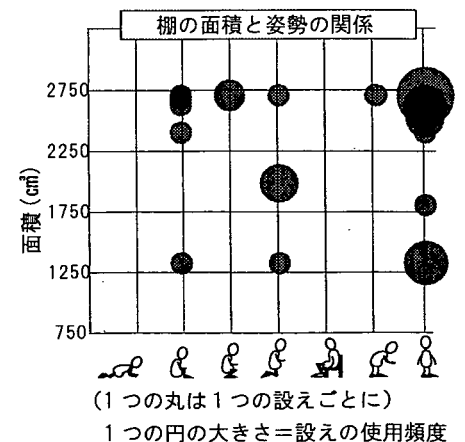


図5 設えと姿勢の関係



に集まる光景が見られる。その後お散歩から帰ってきた園児たちは手洗い、トイレを済ませたのちに各自席について給食の準備を行う。給食を済ませた園児らはゆっくりとお昼寝の準備をはじめロッカーの前でしばし座り込む光景がみられる。着替えを終わった園児が多くなる頃には園児を集めて紙芝居を読み聞かせる光景も見られた。お昼寝後にはテーブルについておやつを頂き帰り仕度をはじめめる園児が徐々にみられ16時にはほとんどの園児が帰り仕度を終えテーブルについて先生と1日のお話をする。16時になると一部の園児が帰宅し、教室内に残った園児の数は半以下になる。基本的に16時からの延長時間では先生の指示による活動はなく、Kuクラス内に設けられているコーナーなどを利用して自由に遊ぶ光景がみられる。17時になると3歳児は一度Ba教室へと移動し、3歳から5歳が同じ教室内で自由に遊ぶ。この間に園児の数は徐々に減ってゆき、18時前には0歳からが5歳までが同じMo教室に集まり保護者がむかえにくるのを待ちそれぞれの園児が自宅へと帰っていく。

D. 1.1 Kuクラスにおける姿勢の様子：

Kuクラスの1日の活動内容を参考に、保育時間帯における園児の姿勢の相違について述べる。特にコアタイムと延長保育の差が著しいと思われる3歳Kuクラスに着目して述べていく。

ここで言う保育時間帯とは、主に長時間利用児のみが活動を行う延長時間と、短時間利用児・長時間利用児の両者が活動を行うコアタイムのことをさす。

図7より代表的な各保育時間の姿勢についてみていく。図には保育時間帯、時刻、使用教室、3歳児の児童数、活動の様子とともにそのときに見られた園児の姿勢について記す。また各場面の時間が把握しやすいように図6にこの場面と同時刻のところに番号をふり示した。コアタイム①：この場面は給食の時間を示しており、ほとんどの園児は先生の指示に従い自分の席に座って給食を食べている。

コアタイム②：お昼寝前の一時に先生が紙芝居を読み聞かせている場面で、大半の園児は先生の前に座り込み紙芝居を見ている。一部の園児は着替えや食事をし

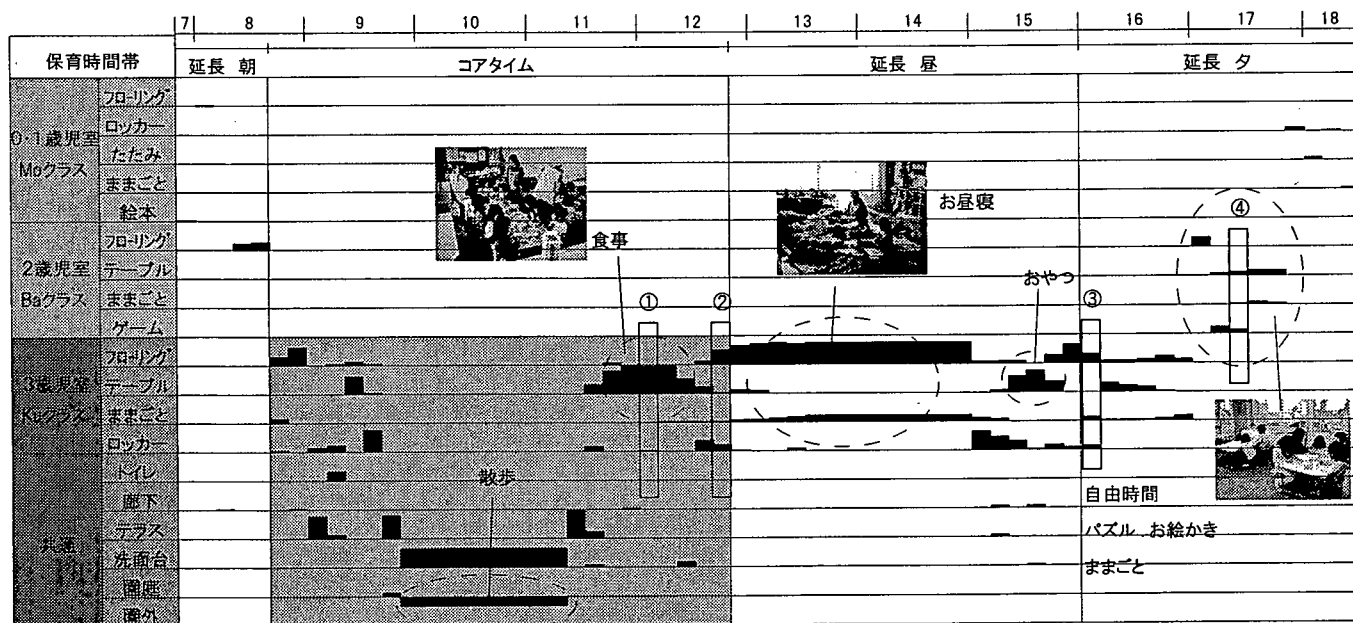


図6 3歳 Ku クラスの1日の活動場所と内容

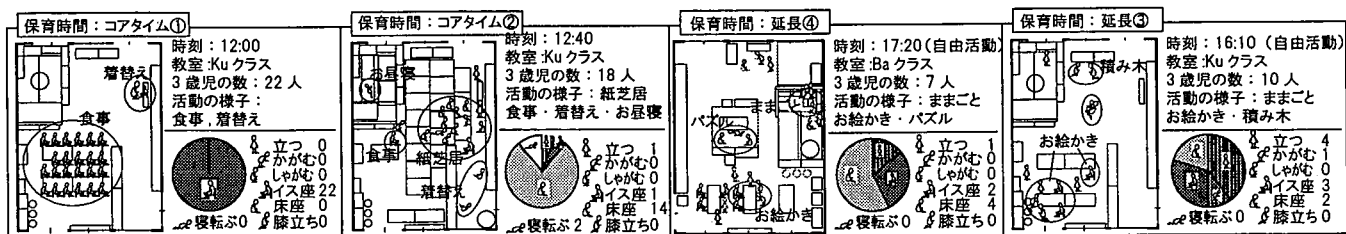


図7 3歳 Ku クラスにおける姿勢の様子

ている。

延長③：16時までの保育時間で一部の園児が帰宅したあとのKuクラスにおける一場面で、この時間帯になると先生の指示はなく各々で思うままに遊ぶ園児たちの様子が見られる。

延長④：17時をすぎると大半の園児は帰宅し、3歳から5歳までが同じ教室内に集まり遊んでいる一場面である。学年の異なる園児らが一緒になってままごとやお絵かきなどを行い遊んでいる。

D. 1.2 場面ごとの園児の姿勢について

コアタイム中の園児は①・②ともほとんどの園児が同じ姿勢をとっており、ほとんどの園児が同じ活動を行っている。それに比べ延長時間においてはそれぞれの園児が様々な場所で活動を行っており、その時に見

られた園児の姿勢は多少の偏りはあるものの多様であった。

このようにコアタイムと延長時間で姿勢の違いが表れた理由は、コアタイムでは体操や給食など先生の指示による設定保育が多いため、園児の活動や姿勢に多様性がみられない。しかし延長時間は先生の指示がなく園児が自由に過ごす自由保育が主となり活動内容が自由になることで、姿勢に多様性が生じると言える。

D. 2 年齢による姿勢の相違

先の節では園内での1日の保育時間帯に着目し時間帯ごとによる園児の姿勢の変化について述べたが、ここでは園児の年齢に着目し、年齢によって姿勢の表れ方がどのように異なるのかを見ていく。

この節では先に見た3歳Kuクラスと5歳Hoクラ

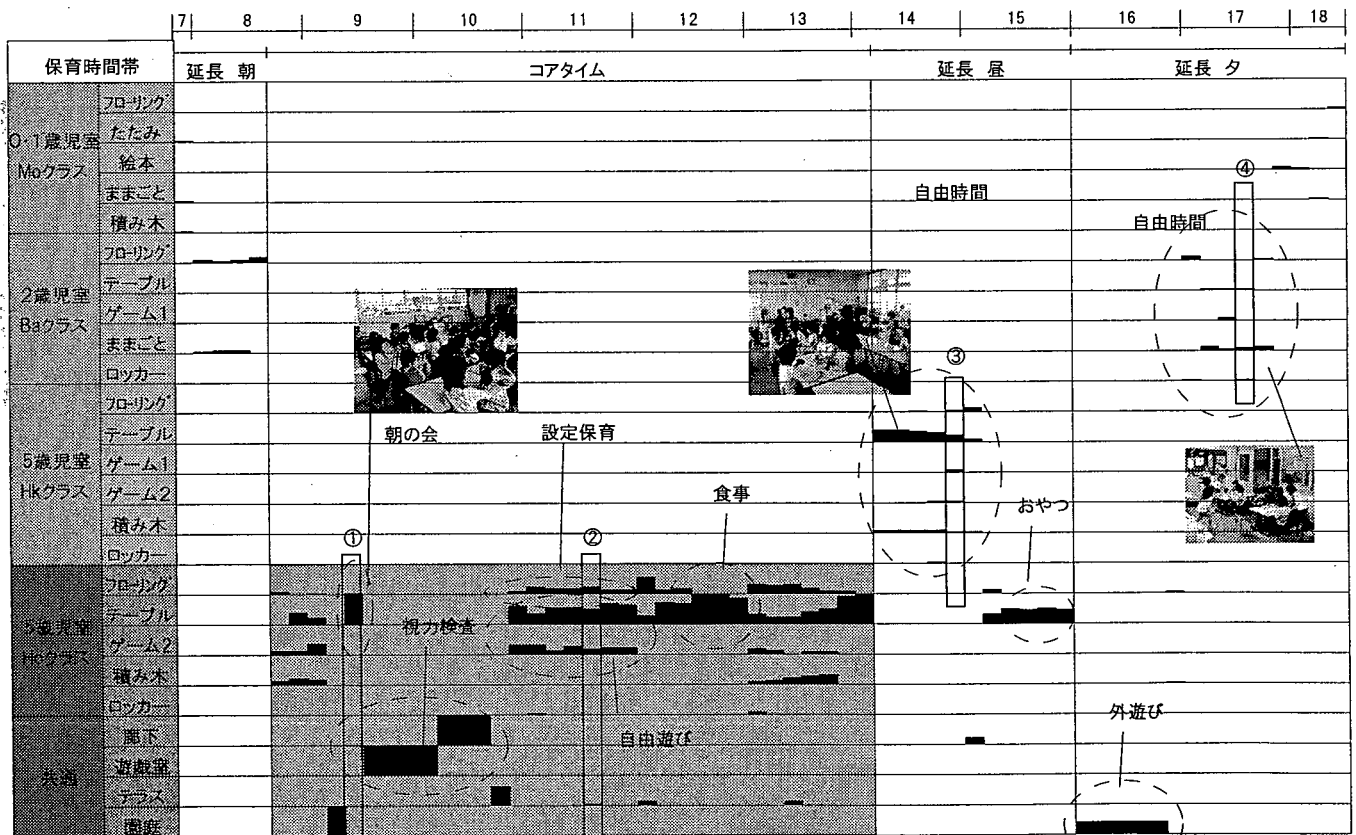


図8 5歳Hoクラスの1日の活動場所と内容

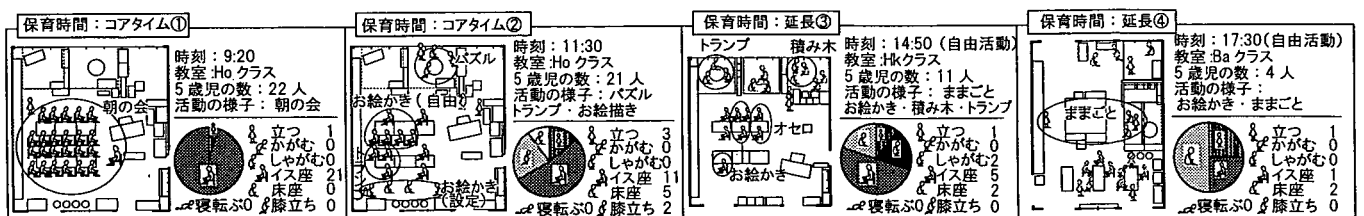


図9 4歳Hoクラスにおける姿勢の様子

スの1日に着目して園児たちに見られた姿勢の相違について述べていく。

図8はHoクラスにおける1日の活動場所を示す。この図よりHoクラスのコアタイムでは朝の視力検査を除くとテーブル・ゲーム・積み木など様々なコーナーで活動している様子が伺える。その反面3歳クラスのコアタイムではテーブルでの活動が主な活動場所とされている。図9にHoクラスにおけるコアタイムと延長時間の代表的な2場面を示す。

コアタイム①：朝の会を行っている場面を示し、園児は自分たちの席に着席し先生の話を受けている。

コアタイム②：コアタイム中にみられた園児たちの遊び時間の一場面を示す。この場面の特徴は、一部の園児は先生の指示による設定保育を行っているが、その

他の園児は個々に自由保育を楽しんでいることである。
延長保育③：延長時間中の一場面である。この時間帯では各クラスの5歳児の数が減るため残った5歳児全員が1つの教室に集まり活動している。活動の内容が先生に指示されることはなく思い思いに遊んでいる。

延長保育④：各学年の人数が減り、3歳から5歳までが1つの教室に集まり学年を問わず自由に遊んでいる。

3歳・5歳のコアタイムにおける活動場所を、図6・8によって比較すると、3歳クラスではコアタイム中、先生が園児を誘導し活動することが多いため活動場所はほぼ全員が同じであるのに対し、5歳クラスの活動場所は3歳クラスよりも増える。その理由として5歳クラスは3歳クラスに比べコアタイム内での設定保育の時間が減ること、一斉の設定保育が減ること、自由保育と設定保育が並存する場が見られることの3点が挙げられる。このため、コアタイムであっても、3歳児に比べ、5歳児の姿勢はより多様である。

D. 3 保育の設定 / 自由の別と姿勢の多様性

図10の2つの写真は同じお絵かき遊びをしている様子を示す。活動時間・遊びの内容は同じであるがそれぞれの園児に見られる姿勢は異なる。

- ①自由遊び中に園児がお絵描きをして遊んでいる
- ②先生から指示を受けお絵描きをして遊んでいる

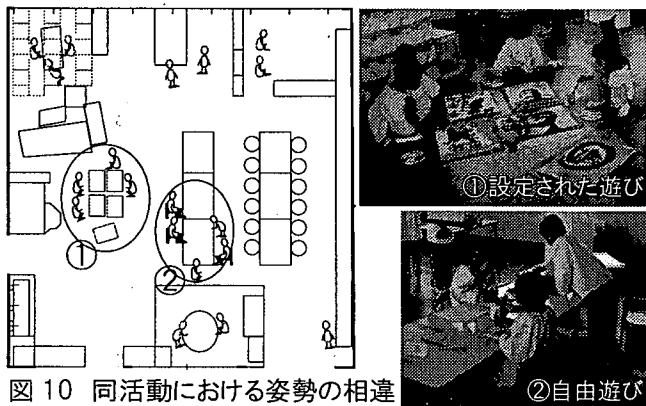


図10 同活動における姿勢の相違

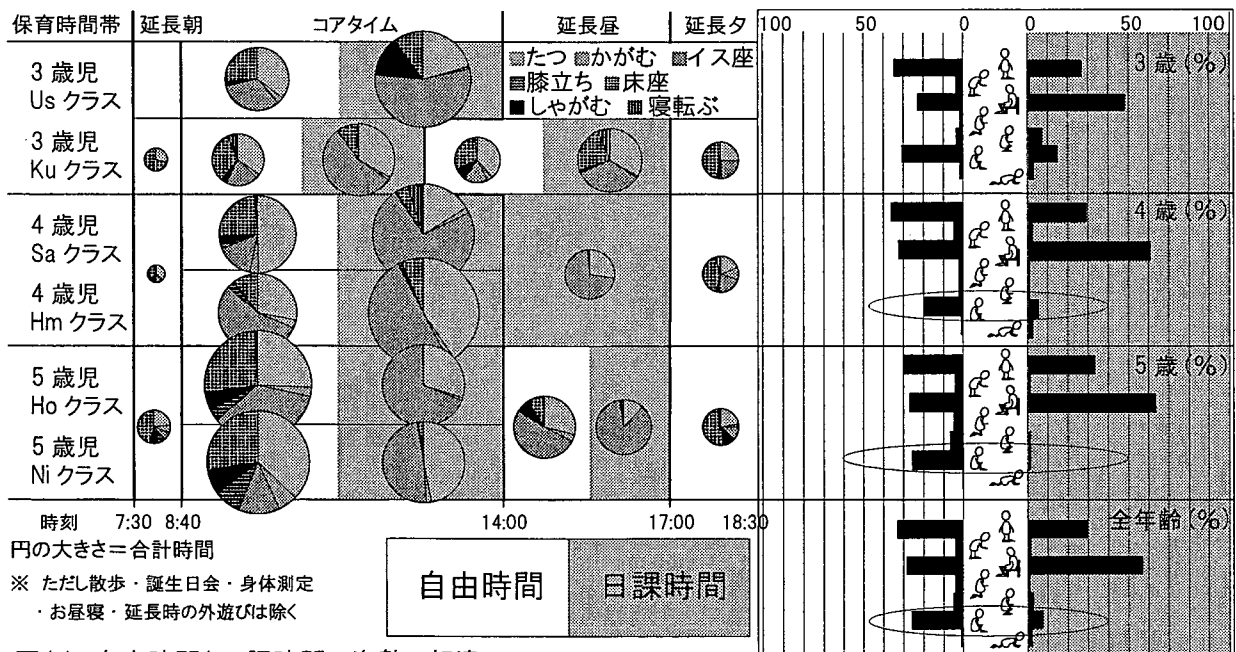


図11 自由時間と日課時間の姿勢の相違

この両者の違いは先生の指示による遊びなのかそうでないのかという点である。遊び場所と遊び内容を指示される設定保育では、姿勢の指示がない場合でも園児の姿勢は一樣になる。一方自由遊びの場合、園児は思い思いの姿勢を取る。

D. 4 保育時間帯による姿勢の相違 II

図 11 はクラスごとに保育時間帯ごとの姿勢の割合を日課時間と自由時間に分けて示したものである。右側に示されている棒グラフは各年齢による 1 日に見られた姿勢の割合を日課時間と自由時間に分けてあらわしたものである。また図中の円グラフの大きさは保育時間帯ごとに行われた日課時間と自由時間の各合計時間を表し、円が大きいものほどその保育時間帯で見られた合計時間が長いものとする。

ここで言う日課時間とは毎日必ず行われるプログラムのことを表し具体的には、朝の会・体操・給食・おやつ・終わりの会のことを表す。基本的にそれ以外の時間を自由時間とし、日課時間と自由時間による姿勢の相違について考える。

また調査日の特別なプログラム（散歩・誕生日会・身体測定）・活動を行っていないお昼寝時間・屋外にて活動中の時間はデータに含まれていない。

図 11 の棒グラフより日課時間では主に「イス座」と「立つ」がほとんどなのに対して、自由時間では「立つ」「イス座」に加えて「床座」の姿勢が多くみられる。また円グラフにおいても「寝転ぶ」～「膝立ち」立ちの低い姿勢に着目してみると、コアタイム・延長時間とも、日課時間よりも自由時間の方が低い姿勢が多いことがわかる。また各自由時間においての比較を行うとコアタイムの自由時間よりも朝有の延長時間の方が低い姿勢がよく見られる。

延長の自由時間 > コアタイムの自由時間 > 日課時間

の順に低い姿勢が多くみられるようになる。低い姿勢は、よりくつろいだ姿勢といえ、延長時間の小規模な人数での自由な活動と対応していると推察される。

E. まとめ

今回の調査では、近年の少子化などの問題に伴い、今後増加が見込まれる幼保一体型施設に着目した。特

に園児の滞在様態をよく表すと考えられる園児の「姿勢」に着目して、園児の活動実態を把握することを目的とした。

今回の調査でわかったことは、C章より設えの面積と高さには関係性があり、グラフに表してみることでその分布を確認することができた。また園内に設けられた設えと姿勢の関係性に着目してみると、高いテーブルでは姿勢の種類は限られるが低いテーブルでは多様な姿勢がみられるといった姿勢と設えの関係性がみられた。

D章では実際の園での活動風景にそって園児の姿勢に着目した。園児はコアタイムと延長保育時間といった保育時間帯によって見られる姿勢は異った。その原因は保育時間帯によって活動プログラムが異なるため、プログラムとの対応で姿勢が異なることがわかった。

今後の施設計画においては、活動様態に即した場の設定が必要であり、活動人数・年齢などにより使用する教室やコーナーの設置の仕方を考慮していくことが必要であると考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

本稿は、加筆・修正を加えたうえで、日本建築学会計画系論文集（査読論文）に投稿予定である。

2. 学会発表

本稿の一部は、下記のとおり日本建築学会大会にて口頭発表される予定である。

吉田麻衣子、他：『保育時間帯による姿勢の相違にみる 幼保一体型施設における園児の生活と場の構築』

■参考文献

1) 厚生労働省 保育所の状況（平成 19 年 4 月 1 日）等について

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2007/09/tp0907-1.html>

2) 株式会社野村総合研究所

<http://www.nri.co.jp/news/2005/050222.html>

幼保一体型施設における活動の分布と規模に関する研究

協力研究者：山田 恵美(立命館大学総合理工学研究機構 客員研究員)
主任研究者：山田あすか(立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 講師)
分担研究者：佐藤 将之(早稲田大学人間科学部人間環境学科 助手)

本研究では、幼児の活動空間について人数および空間の規模の観点から実態を把握し、これまでほとんど整理・体系化されることもなく経験的になされてきたコーナーづくりの手がかりとなる資料を呈示することを目的に、1日の中でも多様な活動形態をもつ幼保一体型施設において観察調査を行なった。

子どもの行為の分布から、活動と空間の使い方の特徴をおさえ、特に自由遊びの時間に子どもがどこで何を遊んでいるのかを詳細に分析することにより、設えられたコーナーの規模や形と実際に子どもが活動している範囲との差異に着目し、活動内容と活動空間の関係にも言及した。実際には、遊びの種類や空間の型によって人数規模と空間規模の伸縮にいくつかのタイプがあることが分かった。また、子ども達が家具や壁からの影響を受けつつも、ある距離を保って活動していることもうかがえる結果が得られた。

A. 研究背景と目的

A-1 研究の背景

保育所や幼保一体型施設^{注1}では園児の滞在時間が多様であるため、一日の中で保育の集団規模は場面に応じて様々に変化する。中でも幼保一体型の施設においては、園児が一日の中で体験する集団規模もより多様化しており、特に午後は段階的に集団の人数が減るのに伴って集団の単位が変化することも想定される。具体的には、短時間児^{注2}が降園すると基本保育時間のクラス単位から学年単位での活動に移り、さらに人数が減ると3歳児以上が合同に、そして最後は残っている子がみんな同じ部屋に移動しての活動となったりする。年齢の大きい子ども達がだんだんに小さい子の部屋へと移って行くという形で異年齢混合の活動時間を設けるケースが多い。基本保育が終わると通常は自由遊びが中心となるが、段階的に部屋を移動するたびに、設えも変わっていき、子どもたちはその都度、状況に合わせて多様な空間を体験することになる。集団の質も規模も変化する1日の生活の中で、空間のあり方、特にコーナーのつくり方は重要となってくる。

一方で、こうしたコーナーづくりは保育士や教諭の経験によるところが大きく、なかなかその手法は整理・体系化がなされていないという実情がある。特にコーナーの規模に関しては、活動の内容や実際のコーナーの使われ方との対応があまり考えられていない。

A-2 研究の目的

以上をふまえ、本研究では特に人数の変動が大きく多様な活動形態をもつ幼保一体型施設をとりあげ、園児たちの活動実態を詳細に観察することで、設えられた空間と実際の子どもの活動の関係を特に規模の観点から探ろうとするものである。本稿では幼保一体型施設における基本的な園児の分布特性を示すとともに、自由遊び空間の規模と形および活動の人数規模との関係を整理することを目的とする。

設えによって用意された空間の形と大きさに対して子ども達が実際に使った空間を検証することで、その遊びに必要な空間の規模や子どもが認識する空間の形を導き、遊びの内容にふさわしいコーナーづくりの資料となることを目指す。

B. 研究方法

B-1 調査概要

1) 調査対象

幅広くデータを集めるため、幼保一体型施設の中から特徴の異なる以下の3つの園(図1)を選定した。

- ・3歳以上が混合の縦割りグループで活動している埼玉県 Kd 園
- ・3歳以上が各3クラスあり、比較的規模が大きく1日の中で活動場所の移動回数が多い滋賀県 Hh 園
- ・各年齢1クラスずつと比較的小規模で移動回数も少ない東京都 Oy 園

2) 調査実施日時

調査はそれぞれ2007年6月から10月に行なった。

Kd 園：2007年7月24日(予備)・10月11日

Hh 園：2007年6月18～20日(予備)

・10月22～24日

Oy 園：2007年7月13日(予備)17日・10月17日

3) 調査方法

写真撮影による観察調査を実施した。対象年齢は友達と一緒に遊ぶことが多くなる3歳～5歳児とし、クラス数の多いHh園では各年齢1クラス、長時間児と短時間児がクラス単位で分かれている3歳児についてはそれぞれを1クラスずつとした。

調査は各クラス1名の調査員がつき、対象クラスの子どもが関わる朝夕の合同保育時間を含めた1日の活動を記録した。ただし、研究の趣旨から記録範囲を対象クラスの保育室とその周りに限定し、屋外活動などは対象外とした。

記録は特に活動の内容とその展開する空間的な範囲および人数に着目し、10分おきのクラス全体の状態をデジタルカメラで撮影し、記録用紙へのメモで補足した。また、自由遊び時間においては新しい活動が発生したり、グループが分裂・融合・解散した時などにも随時記録をとった。

(倫理面への配慮)

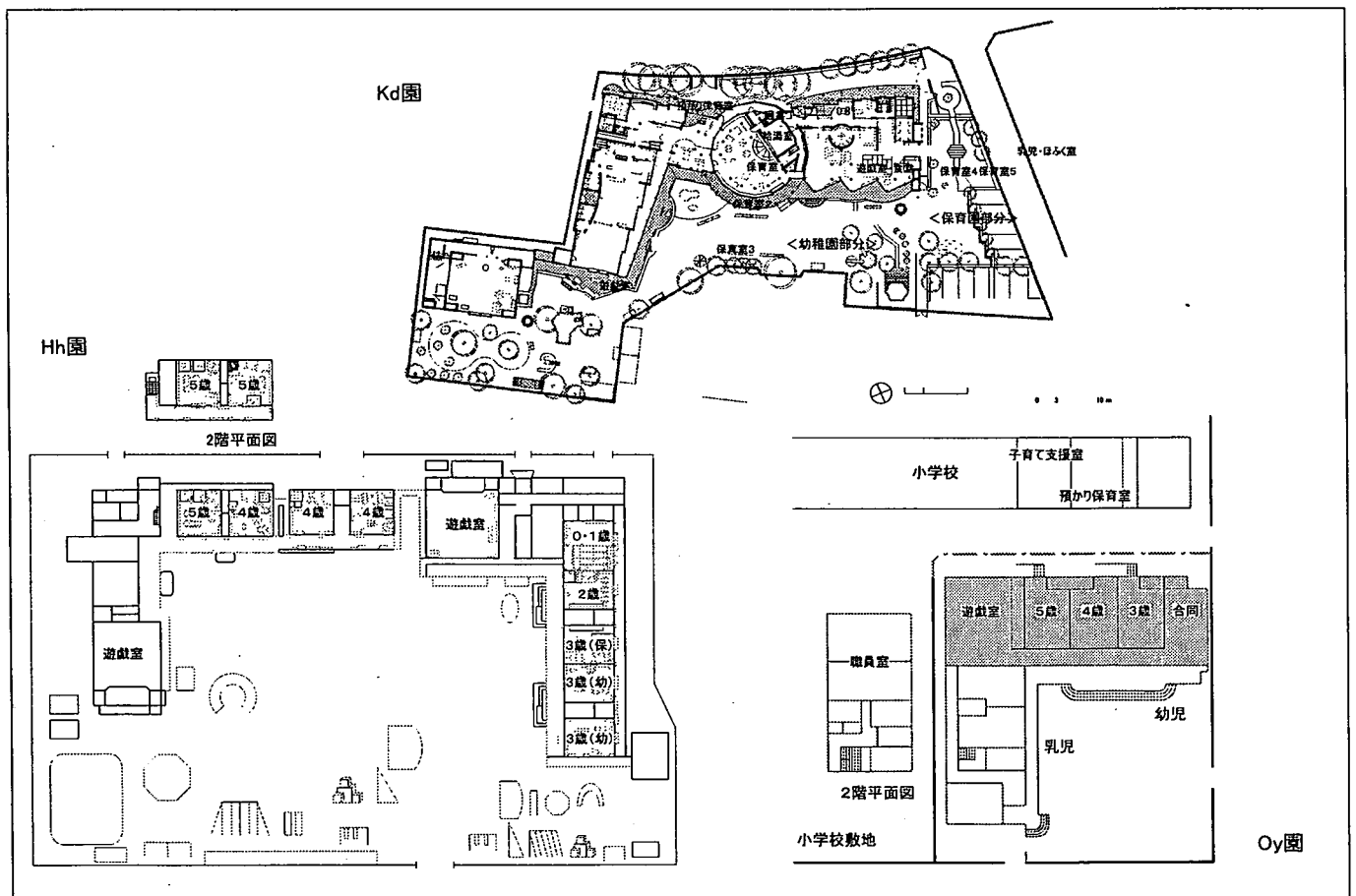


図1 調査対象各園の平面図

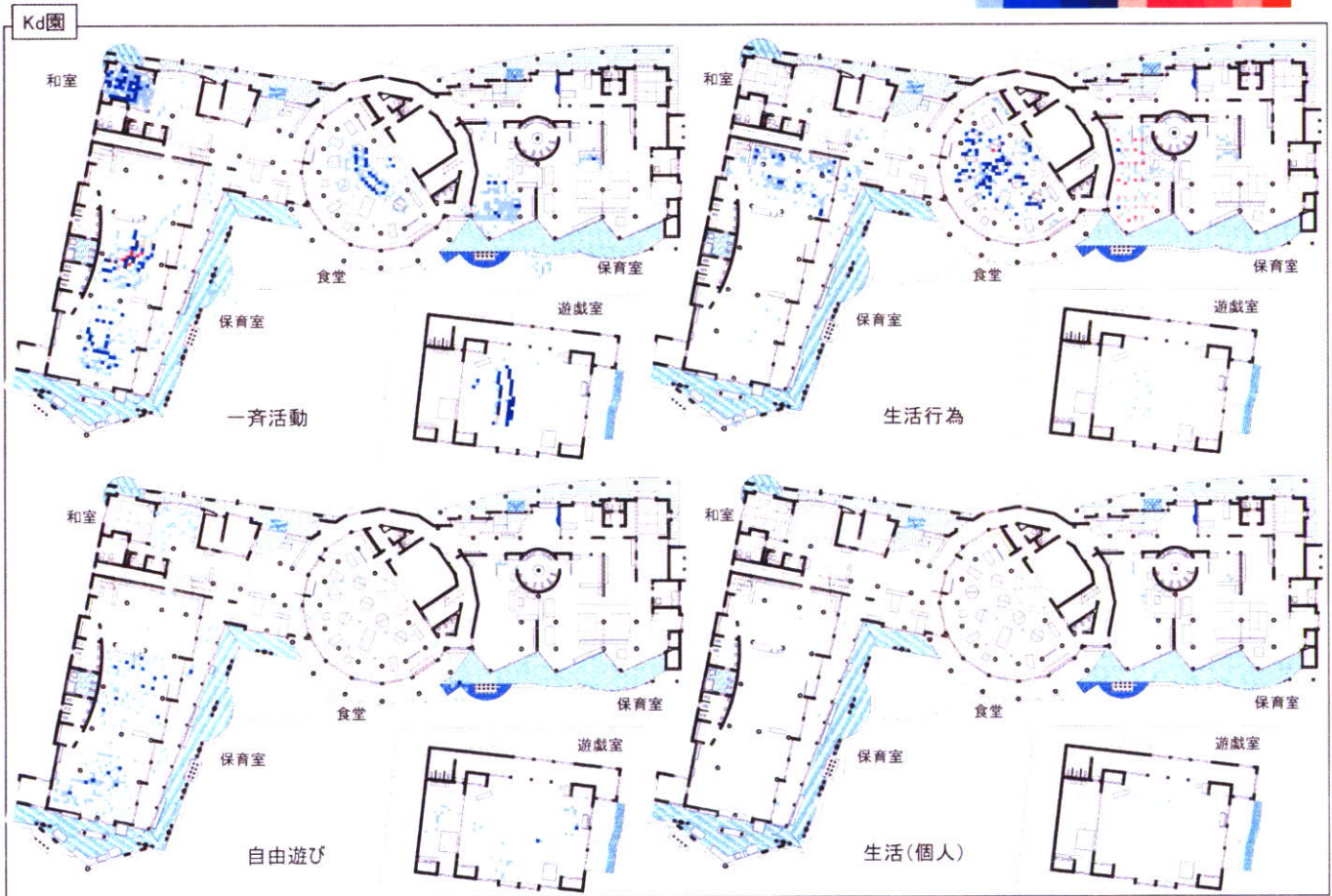
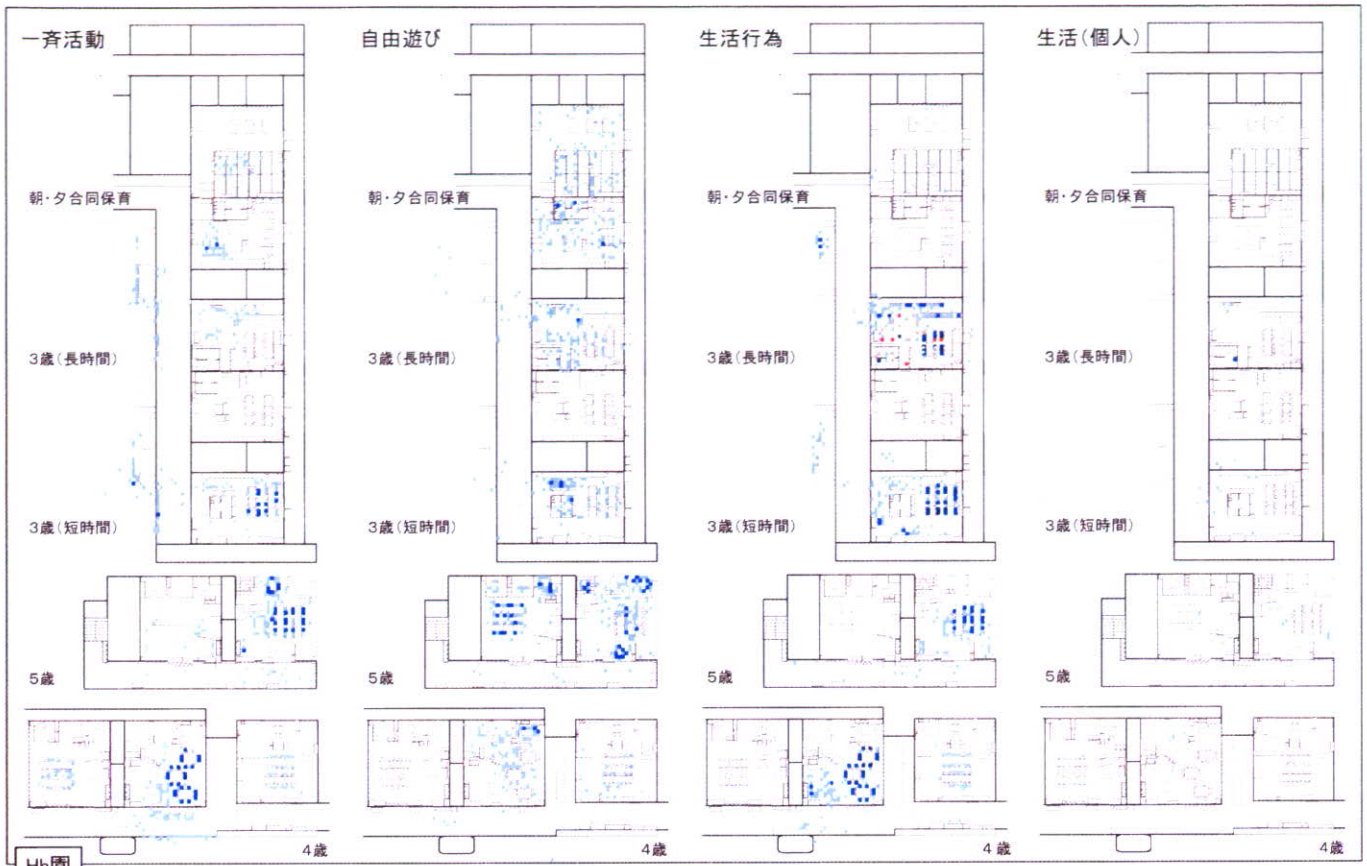


図2 Hh園およびKd園における1日の行為分類ごとの分布

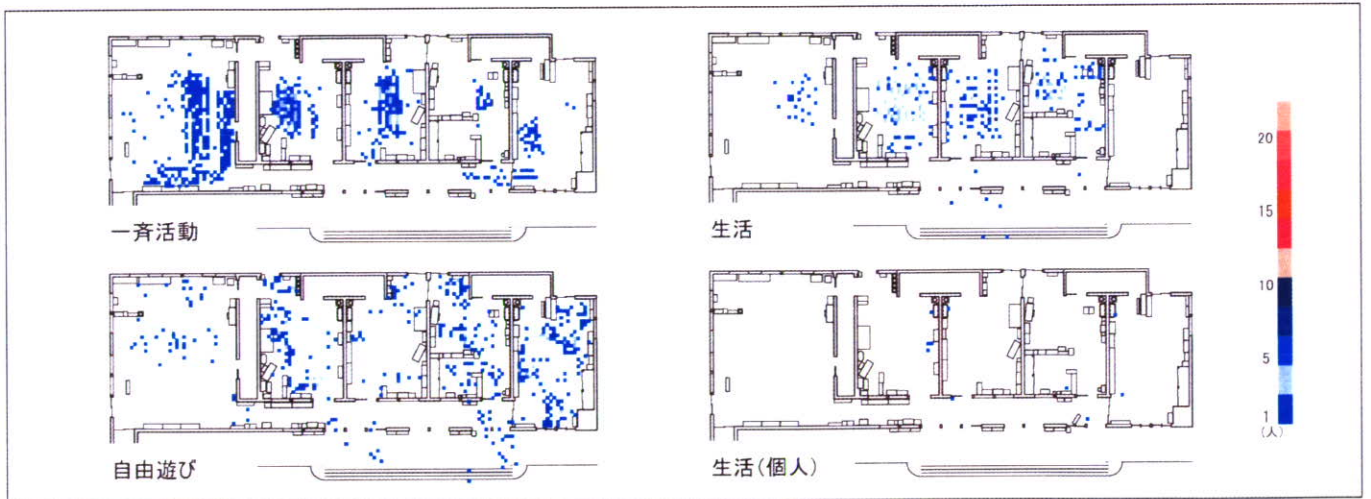


図3 Oy園における1日の行為分類ごとの分布

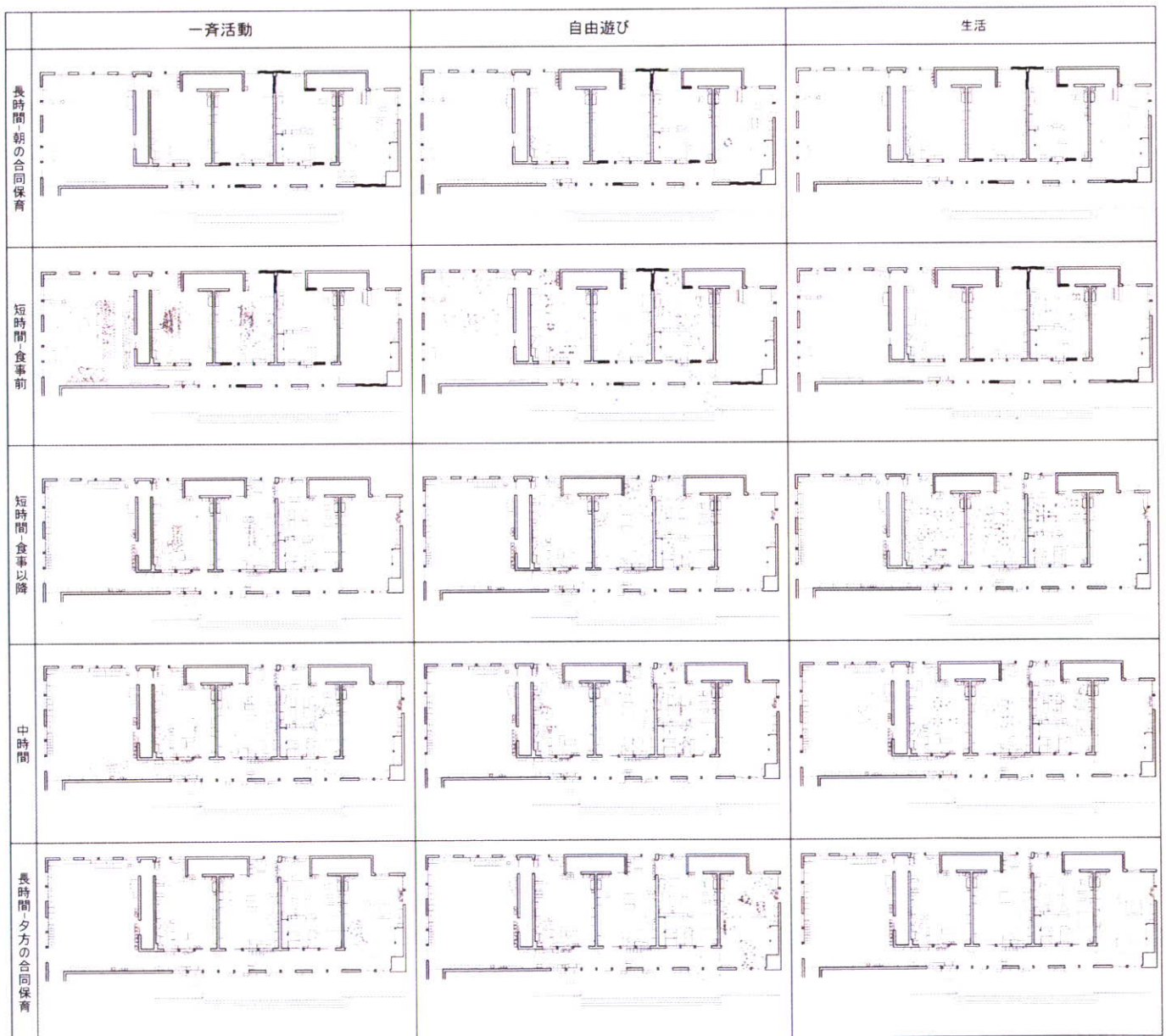


図4 Oy園における時間帯ごとの行為分類分布

本研究にあたっては、写真撮影という記録方法を用いているため、記録時には子どもの顔が極力写らないように努め、また分析においては個人が特定できない形でのデータ化を行なった上で詳細な分析を行なった。

C. 研究結果

C-1 幼保一体型施設における園児の分布

1) 行為分類ごとの1日の分布傾向

まず、一日を通してどこでどのような行為が行なわれているのかを把握するため、子ども達の行為を「活動・生活行為」「保育者の指示・誘導・個人的な意思」という2つの軸から①一斉活動、②自由遊び、③生活行為、④生活（個人）の4つに分類した上で、10分ごとの位置を図面上にプロットした。

これを元に、保育室を縦横30cm間隔^{註3}のグリッドで区切った各マス目の中に、1日の間にのべ何人の子どものいたかを色で示したものが図2および図3である。行為分類ごとの分布には園による特徴が表われている。まずHh園は、3歳児がいわゆる幼稚園的な預かり方をする短時間クラスと保育園的な預かり方をする長時間クラスに分かれているのが園の1つの特徴であるが、この2つのクラスについて比較すると一斉活動において短時間クラスは着席している時間が長いのに対し、長時間クラスはほとんど席は利用していない。集団での生活のある意味象徴する一斉活動においてみられた興味深い違いであるといえる。すなわち、長時間クラスでは活動の場所と生活行為の場所が分けられているのに対して短時間クラスでは活動も生活行為も一斉的なものは個人の席を中心に行なわれており、短時間クラスでは自分の席というものが園に不慣れな子ども達にとってのある種の拠りどころとして扱われていることも予想できる。また、Hh園では4・5歳においても他の園に比べて一斉活動と生活行為の分布が似ている。基本的に常設のテーブルに自分の席が定まっていることで、一斉の活動と個人的な活動の場所の棲み分けがされているように見える。

Kd園では部屋とクラスが1対1対応ではなく、それぞれのコース（縦割りの集団単位）が時間帯によって移動することで複雑な空間利用をしている。その分、

生活行為の場所としてロッカールームがしっかりと確保されており、部屋に割り当てられた機能による棲み分けが行なわれている。

Oy園はコーナーも設えられていながら特に4・5歳クラスでは部屋の中央にオープンなスペースを残してテーブルの出し入れによって活動に合わせた設定をしていて、朝・夕に使われる合同保育の部屋と各クラスの保育室でそれぞれのクラスごとに活動範囲が完結しているのが特徴といえる。

こうした園ごとの特徴がある一方で、行為ごとの特徴として共通する傾向として以下のような点がまとめられる。

一斉活動 保育室の中央に集められる。Hh園はコーナーが作りこまれ、一斉活動では着席する形態をとるので、コーナーの隙間や席上に分布している。

生活行為 食事や午睡などの行為は席や布団に長時間居場所が固定されるため、これらの上が非常に分布頻度が高くなり、手洗いや着替えは手洗い場付近やロッカー付近、あるいはこれらの隙間に分散している。

自由遊び 子ども達が自由に場所を選べる自由遊びでは、年齢によって分布に異なる傾向がみられる。3歳児はコーナーからオープンなスペースまで比較的満遍なく分布しており、5歳児になると部屋の隅やスペースの端に位置どっていて、オープンなスペースは空いている。4歳児はその中間で、両者が混ざり合ったような分布となっている。また異年齢混合のKd園についても、やはりこれらの傾向が混ざり合っている。

生活（個人） 個人的な生活行為については手洗い場とロッカーのそばを中心に分布がみられるが、頻度としては少ない。

2) 時間帯ごとの分布

1日の分布についてさらに詳しく、ここではOy園を例にあげ①長時間児の朝の合同保育、②短時間児が登園してから昼食まで、③食事以降の短時間児が降園するまで、④午睡のあとの中時間児^{註4}が降園するまで、⑤長時間児の夕方の合同保育の5つの時間帯に区切っ

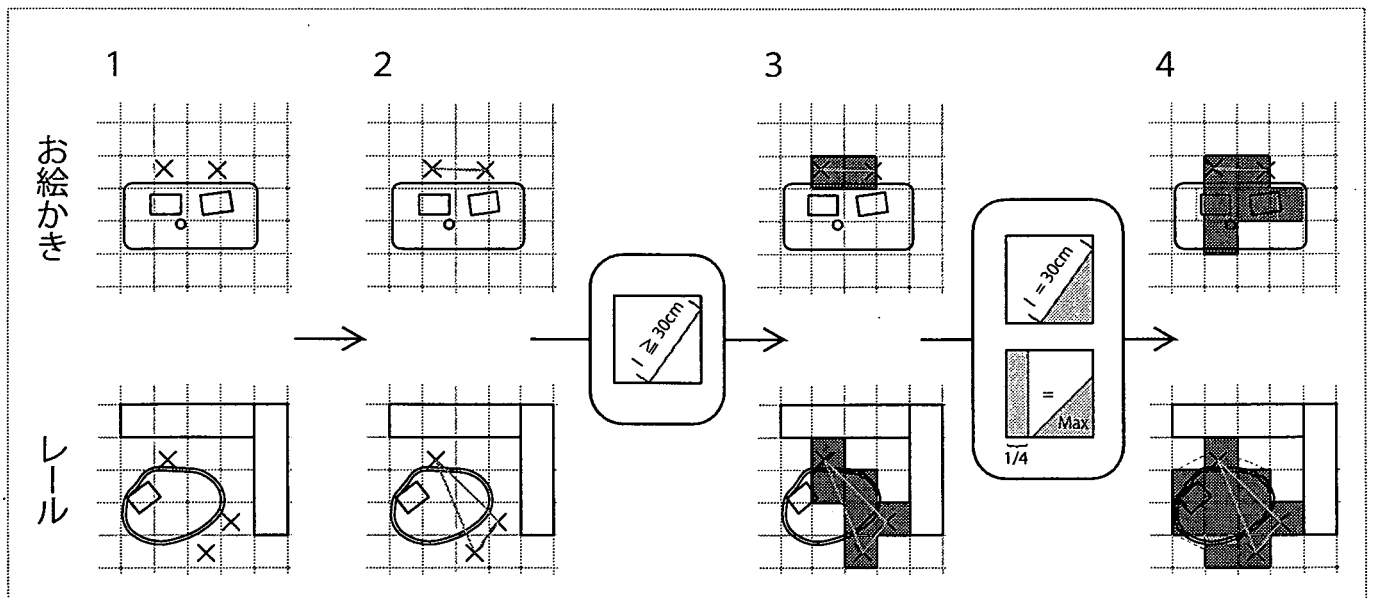


図5 活動範囲の定義

て園児の分布とその幼保一体型施設における特徴を考察する。なお、分析は頻度の低かった個人的な生活行為以外とし、残りの3分類について図4に示した。

①および⑤の時間帯は長時間児のみの少人数となる時間帯で、異年齢の合同保育の時間である。通常専用の保育室はなく、Oy園では午睡の部屋も兼ねているため常設のコーナーはない。出されたテーブル周りに分布が集中する。Hh園では2歳児室、さらにそのあと0・1歳児室へと移動する。

②および③の基本保育の時間帯は最も園児の多い時間帯で、3-1で示した傾向が主にみられる。午前中は一斉と自由の活動が中心。

③および④の時間帯は流れの中心が昼食、午睡、おやつといった生活行為であり、自由遊びは食事の際のテーブルを避けた場所で発生する。ただし3歳については一度片づけたあとテーブルも遊びのコーナーとして使われていた。

C-2 自由遊びにおける活動の規模と形

1) 活動事例の抽出

続いて各園において1日に見られた自由遊びの活動すべての抽出を行なった。C-1のグリッドと子どもの位置のプロットを元に10分ごとの各場面について、まず同一の活動をしているグループの構成児の重心を直線で結び(図5-1~2)、マスの中を通過する線分

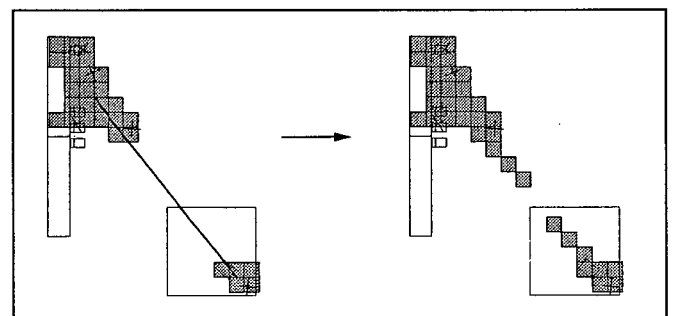


図6 活動が分散している場合

の長さが $l \geq 30\text{cm}$ (1辺の長さ)であるマスと直線に囲まれた内側にあるマスを塗り分けた(図5-3)。さらに子どもが活動に使う「物注5」を広げている範囲について、物の重心のあるマスとこれらのはみ出している面積がマスの4分の1を超えるマスを塗り分け(図5-4)、これらを総じてそれぞれの場面における活動範囲とみなした。面積の4分の1という値は、マスの2辺と $l = 30\text{cm}$ の線分で囲める面積の最大値を基準とした。また、この活動範囲から1マス以内にある家具を活動範囲に影響を持つものとして場面に含めて考える。つまり「場面」にはその瞬間にその活動に関わっている子ども、物、家具が含まれる。中には同一のグループが離れた場所に分散して活動が継続していることがあるが、このような場合にはそれぞれの場所について上記の手順を踏んだ上で、両者の重心を結ぶ直線を引き、子ども同士を結ぶ直線と同じ要領で判定を行なった(図6)。

表1 Oy園の1日にみられた自由遊び時の活動事例一覧

| 型 | 平行型 | | | | 凸型 | | | | 直線型 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|------------------------|--|--|--|----|--|--|--|-----|--|--|-----------|-----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 総合使用範囲 (広域的に使われた範囲) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場面1 | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場面2 | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場面3 | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| L型 | | | | | | | | | | | | オープン型 | | | | | | | | | | | | 出張型 | | | | | | | | | | | |
| [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |
| [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |
| [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |
| 島型 | | | | | | | | | | | | 近接型 | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |
| [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |
| [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |
| [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |
| [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | | [Diagram] | | | | | | | | | | | |

表2 抽出された活動の空間分類と各園、各年齢ごとの事例数

| 事例数 (園・年齢における%) | 囲み方 | | | 凹型 | | | 平行型 | | | L型 | | | 直線型 | | | 凸型 | | | 島型 | | | オープン型 | | | 出張型 | | | 近接型 | | | | | |
|--------------------|--------|---------|----|--------|----|----|---------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|----------|----------|----------|---------|---------|--------|---------|----|---------|----|----|---------|--------|---------|---------|----|--------|
| | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy | Kd | Hh | Oy |
| 3歳 | - | - | - | 1(4.8) | - | - | 2(9.5) | - | - | 4(18.0) | 2(7.4) | - | 4(18.0) | 8(29.5) | 1(9.1) | 1(4.8) | 2(7.4) | 10(80.9) | 8(38.1) | 7(25.9) | - | 1(4.8) | 7(25.9) | - | - | - | - | 1(3.7) | - | - | | | |
| 4歳 | - | 1(11.1) | - | - | - | - | 1(11.1) | 1(8.3) | - | 2(22.2) | 1(8.3) | 3(15.8) | 1(11.1) | 4(33.3) | 3(15.8) | - | 1(8.3) | 12(83.2) | 4(44.4) | 2(16.7) | - | - | - | - | 2(16.7) | - | - | - | - | - | 1(5.3) | - | 1(8.3) |
| 5歳 | - | 4(14.4) | - | - | - | - | 1(3.9) | - | 1(7.1) | 1(3.9) | - | - | - | 4(22.2) | 3(21.4) | - | 3(18.7) | 7(50.0) | 19(73.1) | 2(11.1) | 2(14.3) | - | 5(27.8) | - | - | - | - | 1(5.6) | 1(7.1) | 1(3.9) | 3(16.7) | | |
| 混合 | 1(3.0) | - | - | - | - | - | 1(12.5) | - | 1(3.0) | 3(37.5) | 1(12.5) | 1(3.0) | - | 1(12.5) | 2(6.1) | - | 23(89.7) | 2(25.0) | 4(50.0) | 1(3.0) | 1(12.5) | - | 1(3.0) | - | 1(12.5) | - | - | 1(12.5) | 3(9.1) | 1(12.5) | | | |

※ 出張型は型とオープンの組み合わせ、近接型は2つ以上の型の組み合わせ